

日本コミュニケーション学会九州支部
第26回大会プログラム

The Japan Communication Association Kyushu Chapter
The 26th Annual Convention

大会テーマ

メディア・コミュニケーション～ローカル・メディアの役割～

Convention Theme

Media Communication: Roles of Local Media

2019年11月2日（土）
November 2 (Sat), 2019

福岡女学院大学
(421 教室 410 教室 411 教室)
福岡県福岡市南区日佐3丁目42-1
電話（代表）：092-575-2971

Fukuoka Jo Gakuin University
(Meeting Room 421, 410 & 411)
3-42-1 Osa, Minami-ku, Fukuoka-shi
Phone : 092-575-2971



後援 福岡女学院大学人文学部メディア・コミュニケーション学科

各位

第 26 回九州支部大会を開催いたしますので、ご案内申し上げます。どうぞ奮ってご参加ください。

日本コミュニケーション学会九州支部 支部長 吉武 正樹

大会案内

1. 大会参加者は**参加費 1000 円**を当日、受付にて納入してください。
2. 九州支部会員の方は**支部総会に必ずご出席**ください。
3. 昼食は**弁当 (1000 円)**を予約するか、**昼食をご持参**ください。また会場周辺にはスーパーマルキョウがあります。
4. **懇親会費は 5000 円**です。予約の必要がありますので、参加される方は e-mail でお申し込みの上、当日受付にて会費を納入してください。10 月 25 日以降に申し込みをキャンセルされた場合は、会費の全額を申し受けます。
5. 会場に準備したコーヒー、お茶、その他の飲み物は、ご自由にお取りください。
6. 参加申し込み及び弁当注文
10 月 18 日（金）までに以下のサイトからお申し込みください。
<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSciTH4Y1sZHMkaKIyw32Dztyj8Gzkk18-SKN4t31OoYushXLA/viewform>
7. 問い合わせ先
日本コミュニケーション学会九州支部事務局
久留米工業高等専門学校
横溝 彰彦（九州支部事務局長） yokomizo@kurume-nct.ac.jp
池田 理知子（大会実行委員長） richikoikeda@gmail.com

発表者の皆さまへ

1. プロジェクター等は会場に用意してあります。
2. ハンドアウトを準備する場合は 15 部程度ご用意いただき、発表前に配布してください。また、発表時間は質疑応答を含めて 30 分です。発表時間は厳守してください。
3. やむを得ない事情で発表ができなくなった場合は、速やかに大会実行委員長までご連絡ください。

9:00～ 受付

9:30～9:50 開会式

410 教室

司会：池田 理知子（福岡女学院大学）

支部長挨拶：吉武 正樹（福岡教育大学）

会場校挨拶：二階堂 整（福岡女学院大学）

10:00~11:30 **研究発表 1**

410 教室

司会：蘭 紅艶

10:00~10:30 「Relational baggage/関係に持ち込む荷物」と「現在の恋愛」に関する
考察

志岐 早苗（西南学院大学大学院博士後期課程）

10:30~11:00 Think Beyond - A 500-yen Project Report

蘭 紅艶（福岡女学院大学）

11:00~11:30 大学生の「難民」に対する意識調査：「外国人」との比較から

筒井 久美子（立命館アジア太平洋大学）

上原 優子（立命館アジア太平洋大学）

10:00~11:30 **パネルディスカッション**

411 教室

司会：池田 理知子

「異文化コミュニケーションの授業実践から探る教育の可能性」

パネリスト： 池田 理知子（福岡女学院大学）

埴 幸枝（神田外語大学）

青沼 智（国際基督教大学）

[パネルディスカッション趣旨]

2019年4月に三修社から刊行された『グローバル社会における異文化コミュニケーション～身近な「異」から考える』は、「異」を広義に捉えることで初学者にも容易に理解可能な異文化コミュニケーションの理論と実践を伝えるために執筆された。今回は、実際に執筆に携わった3人のパネリストが、このテキストを用いてどのような授業展開をしたのかを報告し、それを起点に異文化コミュニケーション教育のあり方や、よりよい授業運営を行うにはどうしたらよいかなどについて議論する。まず、各自の授業実践の具体的な報告——授業を行ううえでどのように教科書を用いたのか、どういった工夫を凝らしたのかなど——を行ったあと、パネリストどうしおよびフロアの参加者も交えて、学生にとってわかりやすくかつ考えさせる内容の授業展開をするにはどうしたらよいかなどの意見交換をする。こうした授業実践に関する議論の場が設けられる機会は限られているため、今回のようなパネルを行う意義はあるはずだ。

11:40~12:00 **支部総会**

410 教室

司会：吉武 正樹

12:00~12:50 **昼 食** （415 教室をご利用ください）

12:50~14:20 研究発表 2

410 教室

司会：吉武 正樹

12:50~13:20 日本の女性におけるワーク・ライフ状況の俯瞰的考察
吉村 美路（愛知東邦大学）

13:20~13:50 メディアとしての抗議テント
——沖縄県東村高江周辺のヘリパッド問題の現在——
山本 真知子（同志社大学大学院博士後期課程）

13:50~14:20 小学校における外国語指導法
ーコミュニケーション学による基礎づけー
吉武 正樹（福岡教育大学）

14:20~14:30 休 憩

14:30~15:20 基調講演

421 教室 「井の深さを知る～ローカル・メディアの役割～」

【基調講演要旨】

熊本日日新聞社 高峰 武

私に与えられたテーマは「ローカル・メディアの役割」ということであった。「ローカル・メディア」の「ローカル」とは何か。私は1976年に熊本日日新聞社に入社以来、自分たちのことを「ローカル・メディア」と思ったことはない。では何か。言えば「地元メディア」というぐらいのことだ。

私は編集局では主に社会部畑を歩いてきた。警察、労働、司法、特定の持ち場を持たない遊軍などの分野で、事件名で言えば、水俣病問題や、死刑囚が再審無罪になった免田事件を担当した。事件が起きた場所は「ローカル」であったが、事柄が問うているのは「ローカル」ではない。入社したてのころ、先輩から『井の中のかわず 大海を知らず』には続きがあって、それは『大海を知らずして 井の深さを知る』だよ」と言われたことがある。酒席で出典も不明の話だったが、「井の深さを知る」という言葉が心に残った。「井の深さ」は普遍という岩盤につながっているのではないか。そんなふうに「地元メディア」の役割を思う。

15:20~15:30 休 憩

15:30~16:50 パネルディスカッション

421 教室 「メディア・コミュニケーション～ローカル・メディアの役割～」

コーディネーター：池田 理知子

【パネルディスカッション主旨】

高峰氏の「事件が起きた場所は『ローカル』であったが、事柄が問うているのは『ローカル』ではない」との発言を受け、「ローカル」な事件の普遍性を追求しうる地元メディアの存在意義をメディア・コミュニケーション論的に考察していく。さまざまな関係性を映し出し、かつ紡ぎだすのが新聞記事というメディアだとすると、地元メディアはその土地や、取材現場や住民との距離の近さにおいて、より重層的な関係を構築することができるのではないだろうか。「全国／地方」「中央／地方」といった二元論を越えた地元メディアの役割について、メディア論およびメディア・レトリック論が専門の二人から、高峰氏の発言への応答をそれぞれ行ってもらおう。その後、高峰氏およびフロアのみなさまとの議論を深めていきたい。

〔講師・パネリスト紹介〕

高峰 武（たかみね・たけし）：1952年熊本県玉名市生まれ。早稲田大学卒。熊本日新聞社編集局長、論説委員長、論説主幹を経て現在、論説顧問。その他、熊本大学非常勤講師、熊本学園大学非常勤講師、同大学水俣学研究センター客員研究員。著書・共著に『ルポ精神医療』（日本評論社）、『検証ハンセン病』（河出書房新社）、岩波ブックレット『水俣病を知っていますか』、『熊本地震 2016 の記憶』（弦書房）、『8のテーマで読む水俣病』（弦書房）、『完全版 検証・免田事件』（現代人文社）などがある。

林田 真心子（はやしだ・まみこ）：福岡出身。福岡放送アナウンサー、在京テレビ局記者・ニュースデスクを経て現職。九州大学教育学部卒業。東京大学大学院学際情報学府博士課程満期退学。専攻はメディア論。放送現場の送り手に関する人類学的研究や、メディア・リテラシー実践に関心を寄せている。共著に『大学生のためのメディアリテラシー・トレーニング』（三省堂）など。

青沼 智（あおぬま・さとる）：横浜市立小学校・中学校、神奈川県立高等学校卒。埼玉県内の大学を卒業後、米国アイオワ州・ミシガン州の高等教育機関より M.A.および Ph.D. を取得。現在千葉市在住。専門はコミュニケーション論、レトリック、討議理論。「3/11」以降、東京圏でゲリラ的に発生する社会運動のコミュニケーション力について参与観察を継続している。共編著に『メディア・レトリック論』（ナカニシヤ出版）など。

16:50~17:00 閉会式（421 教室） 司会：横溝 彰彦
JCA 学術局副局長：松本 健太郎（二松學舎大学）
大会実行委員長挨拶：池田 理知子（福岡女学院大学）

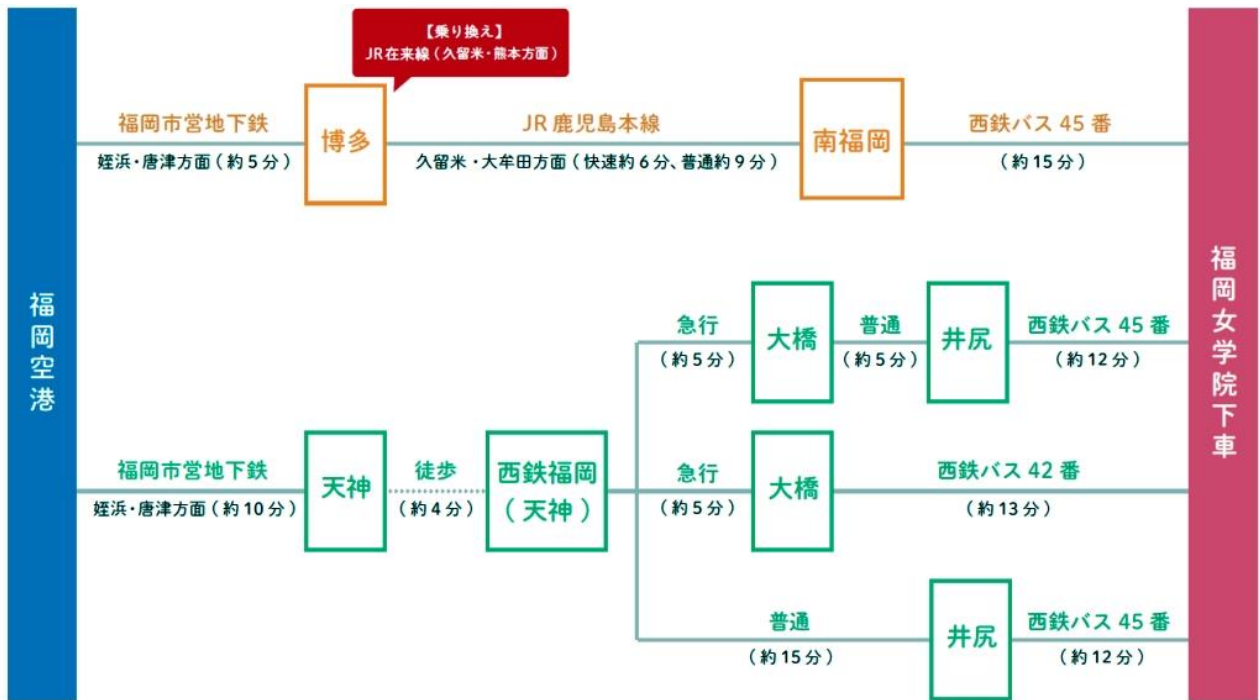
18:00~20:00 懇親会
 イタリアンレストラン「TESHIMA」
 (福岡市南区大橋2丁目14-8 あらべすく大橋1F) 092-557-1655
 司会：仲里 和花 乾杯：塙 幸枝

アクセス

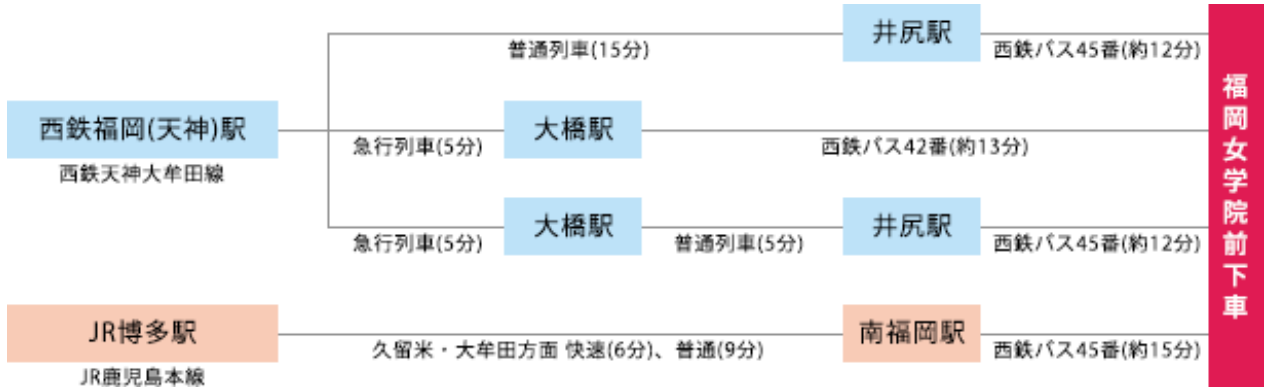
〒811-1313 福岡市南区日佐3丁目42-1
 代表電話 092-575-2971 / FAX 092-575-4456
<https://www.fukujo.ac.jp/university/other/access.html>



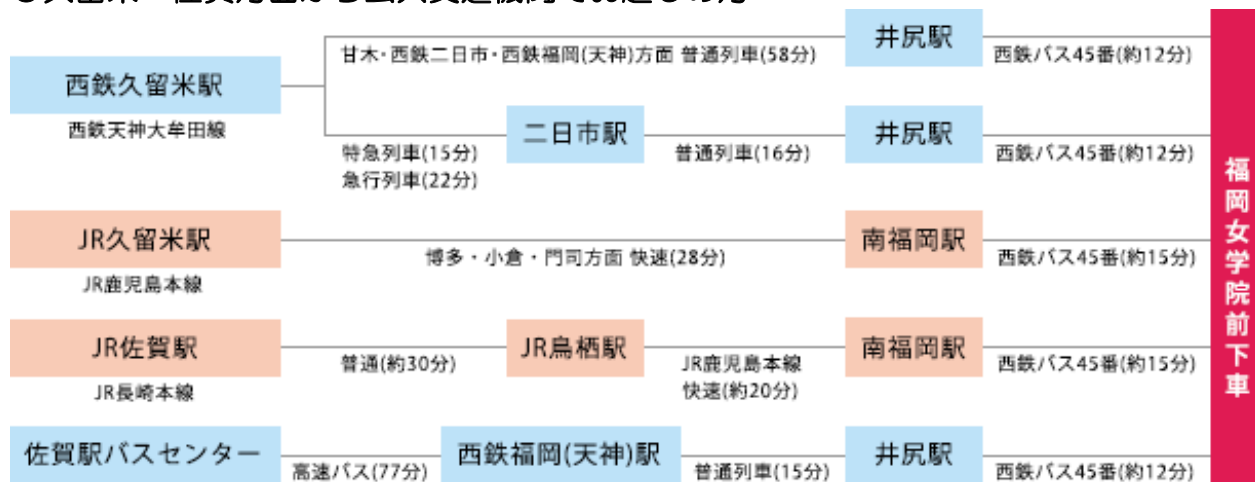
●福岡空港から公共交通機関でお越しの方へ



●天神・博多方面から公共交通機関でお越しの方へ



●久留米・佐賀方面から公共交通機関でお越しの方へ



●バスのご案内

★西鉄大橋駅→福岡女学院（42番のバス）

08:42 発→08:57 着、08:58 発→09:13 着、09:09 発→09:24 着、09:25 発→09:40 着
 ※09:37 発のバスからは、福岡女学院バス停に停まりません。須玖小学校前バス停で降りてください（福岡女学院まで徒歩5分）。

★西鉄井尻駅→福岡女学院（45番のバス）

09:09 発→09:19 着、09:12 発→09:29 着、09:26 発→09:36 着

★JR 南福岡駅→福岡女学院（45番のバス）

08:46 発→09:01 着、09:01 発→09:16 着、09:27 発→09:42 着

※徒歩の場合、入構の手続きは不要です。

●お車でお越しの方へ

駐車場は福岡女学院大学の駐車場（正門入ってすぐ左手の来客用駐車場）をご利用ください。利用の際は正門の守衛所にひと声おかけください。

大通りのスーパーマルキョウ春日店前にある「春日中前」交差点を曲がり、直進すると正門に着きます。

カーナビで「福岡女学院大学」と入力すると、外来駐車場のない西門を案内することがありますのでご注意ください。カーナビに入力する際は、マップコードを使用していただけると便利です。

【福岡女学院大学 正門】 mapcode 13 113 581

※「マップコード」および「MAPCODE」は(株)デンソーの登録商標です。